

クロカン向けに改良された BJ44V

このBJ44Vは、ハチマルに乗っていたオーナー氏が仲間の部品取り車を譲り受け、クロカンマシンとして復活させたものである。拾ってくれた飼い主に恩義を感じた捨て犬のように、このヨンマルはオーナー氏の手足となって競技にも参戦しているし、ハチマルを売却してからは新婚家庭のファーストカーとしても活躍している。オリジナルを重視するコレクター派、いまだに光モノをくつつけたがるデコレーション派（の残党）のいずれからも蔑視されそうな変更が行われているが、平成武闘派ヨンマル乗りの定番仕様とも言える。もし整備工場等に依頼するにも、ある程度は自分で部品調達をしなければならぬから、ランクル乗り同士の情報交換は必須だ。最近では中身の改良だけでなく、朽ち果てた



外見は車高を上げた普通のヨンマル

ルーフトリップの再生や塗装といった化粧直しも行われ、見栄えが向上したようだ。



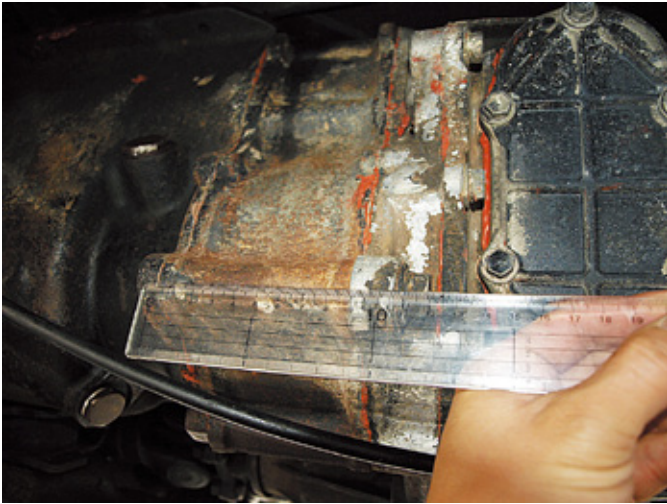
何度も割ってしまった経験からテールランプを移設、そのままではスペアタイヤに隠れてしまうので、キャリアを延長加工したが、リアゲートの開閉は面倒に。



ここまでひん曲がれば切る必要もない。



冷却効率を高めるためらしいが、建て付けが悪くようにしか見えない。



BJ42/46 から採用された H55F 型 5 速ミッションに換装。4 速のケースを 12 センチほど延長した造りが良くわかる。ファ어의後端が干渉するため燃料タンクの縁を曲げてある。



H55F 型でも 70 系から外したもので、レバーが後方に移動した。

60 系のホーシングでワイドトレッド化された後足は LSD 入りのフルフロート式。235/85R16 サイズのタイヤでも、オーバーフェンダーが必要になった。



ジープのフックは出っ張りが少なく、宗派を超えて愛用される。



肉厚で長さもある 77 系のリアシャックル。リーフは純正ブレンドで、ランクル乗りが多いアンチ社外品志向か？